

「継続は力なり」こそが「Challenge」の本質だと考える。とは言え、ただ「続ける」という意味ではない。一般的には「Challenge」や「挑戦」からは、困難なことや大きな目標に立ち向かうことを想像するであろう。確かにあまりに細かいことや当たり前のことに「挑戦」という言葉を使うと、おかしな印象を受ける。では私にとって何が一番「Challenge」と言えるか？これを突き詰めると、実は印象とは逆に地味なことをコツコツと積み上げられること、積み上げて継続することが本当の意味での「Challenge」なのではないかと考える。

長年勤務した企業研究所での経験を考えると、大きなテーマや目標は個人プレーで解決するわけではなく、同僚と分担してプロジェクトを実施する。チーム全体では非常に大きな課題に取り組むが、若手の個人が一人で全てを解決するようなことはまずない。これは研究管理職でも変わらない。自ら大きなテーマを構想するが、自分で全てをやり切れるわけではない。部下や様々な部門の他者との調整や共同での検討などが必要になる。

その際に、では何が必要であったか？大きく分けると3つの要素が挙げられる。1つ目は目標の細分化である。単に将来（例えば5年後）に実現したいことを将来予測(forecast)として掲げるのではなく、その目標を実現したい将来の時点から現在に向かって“backcast”する必要がある。“backcast”するには、毎年、毎月、そして日々何をすべきかを定める。こうしてできた細かな目標を少しずつクリアーして行く。目標をできる限り細かく刻み、分かりやすくすることが大きな目標に立ち向かう際に必要なことであると感じている。

2つ目は、継続して興味を持ち続けられることの必要性である。途中で興味を失えば目標は達成できない。「興味を失う」の主語は自分自身でもあり、また上司や同僚でもある。日々コツコツと積み上げていると、自分だけでなく、他者も確かにプロジェクトの進捗を実感できる。一方いつまでも大目標だけを掲げていると、段々と色褪せてしまう。これは共同でプロジェクトを進めている際には重要である。大学でも様々な外部資金を調達する中で、研究状況の報告は大事である。全体の進捗状況を明確にできるようにするためにも、あらかじめ目標を刻み、現状の到達点を示すことができると、プロジェクトを共同で進めている人だけではなく第三者にも、継続的に興味を持ってもらえるようになるのではないだろうか？

3つ目は優先度についてである。大学であれ企業であれ、色々なプロジェクトは期限を切って行わなくてはならない。霞を食べているわけではないので、人生をかけて行うとうそぶいているわけにはいかない。私個人に限らず、多くの人にとって、仕事の優先度は得てして締め切りが差し迫った順になってしまうのではないと思う。時間は有限であるというが、別の見方をすれば時間は常に進んでいる。その時間をどう過ごすかが、大学を卒業した後の人生の中で常に課題となっていた。様々な優先度の仕事が並行して存在している中で、どのように目標として掲げたことをやっていけるか。長期的な目標であれば、まだ時間があるからということで、どうしても後回しにして、緊急性の高い案件を先にしがちである。これは心理的な問題でもあるが、目標達成という観点では非常に重要な要素であると考え。このような心理になる主要因は、大きな目標のままだとまだ先でも大丈夫とどうしても後回しにしてしまうからである。20年程前に他の仕事が忙しくてなかなか論文をまとめられないということを、友人の元AT&Tの研究者に話した際に“Job is always there.”言われた言葉が忘れられない。長期的に検討している問題をやり遂げるためには、それを心理的にも優先課題という形で位置付けなくてはならない。そのためには長期的な目標を細かく刻み、毎日の目標として優先度をつけることが、私の実践である。これを少しずつでも時間的に継続できることが、仕事であってもそれ以外のことでも、私にとっての「Challenge」であり、やり遂げた際に達成感をもっとも味わえるものだと考えている。

画期的なアイデアや答えへの道筋が最初から分かっていたら苦労はしない。ぼやっとした考えでも、それを具体的にどうしたらよいかを細かく分けて考える必要がある。経験上は、新たなアイデアや解決の糸口がセレンディピティとしてその中で訪れてくる感じがしている。「三年寝太郎」的的人生逆転劇は憧れだが、若手の技術者や研究者へは、「継続は力なり」が実は次なる挑戦のための「challenge」であることを伝えたい。